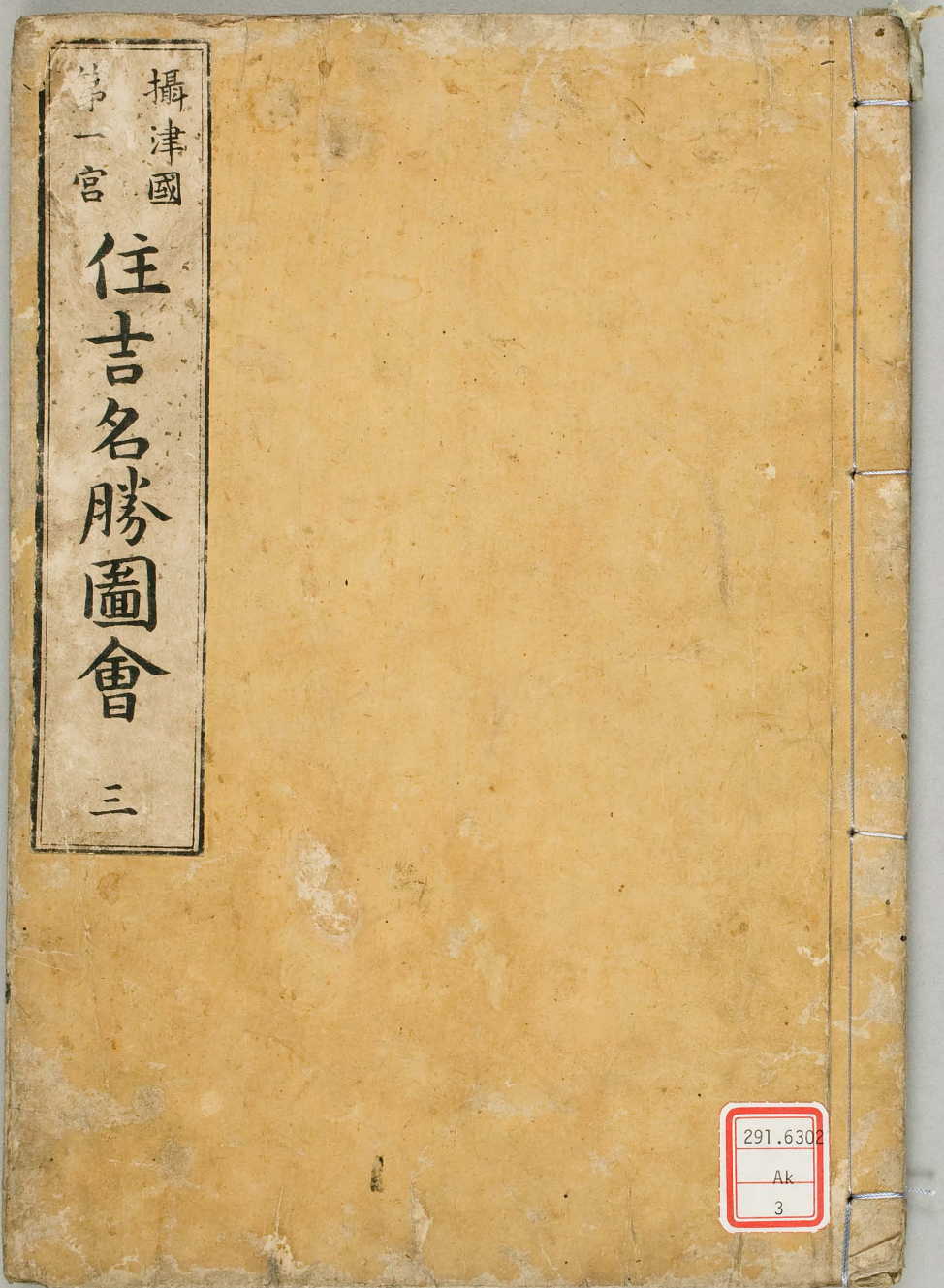
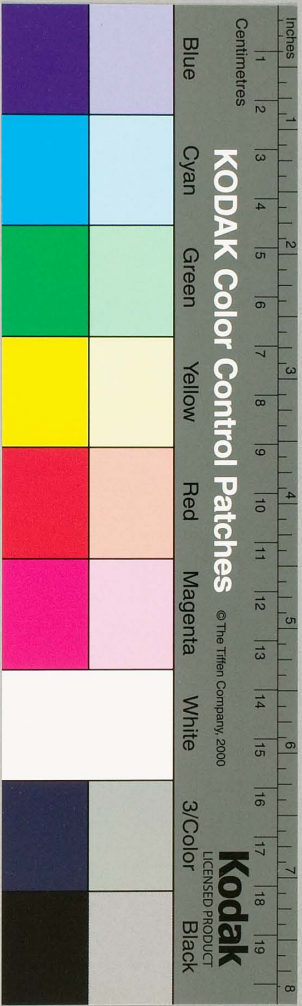


0410



攝津國
第一宮

住吉名勝圖會
三

291.6302

Ak

3





住吉名勝圖會卷之三目錄

神宮寺由來

津守寺之圖

浄土寺之圖

鎮守之神

慈恩寺車返櫻

廣田社之圖

今宮夷社之圖

同寺年中行事

新宮之圖

國基之社

告礊之石

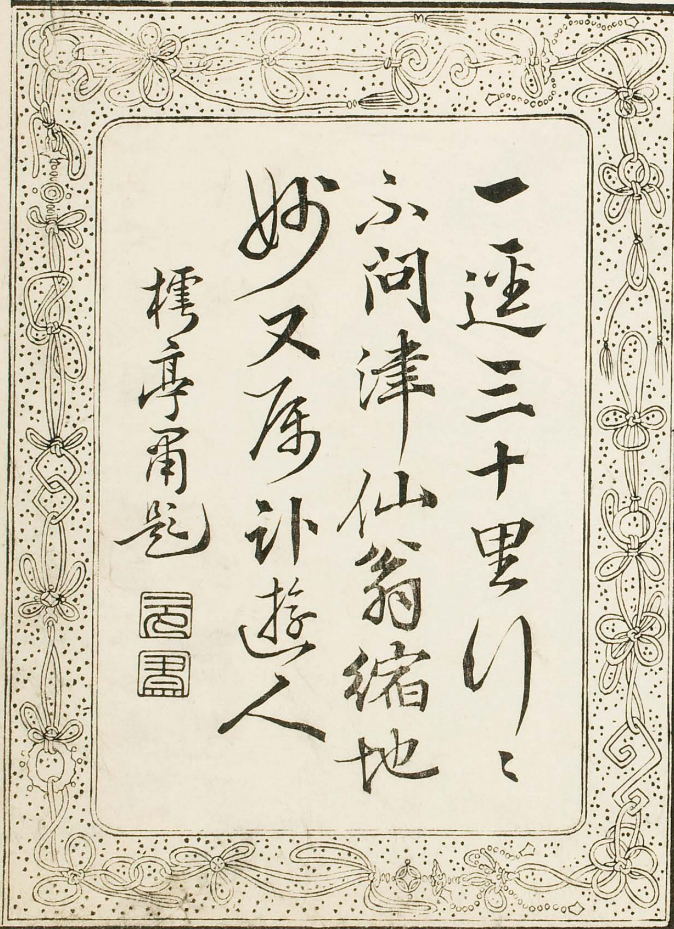
牀菜庵由來

星ヶ池由來

瑞龍寺之圖

土塔之宮之圖
 安倍野王子之圖
 經塚之由来
 萬代池之圖
 播磨塚之由来
 以上

庚申堂之圖
 松蟲塚由来
 大名塚由来
 小町塚由来





神宮寺



寺院之部

神宮寺

在住吉社之北日光御直末寺領三百六十石境内
東西六十七間五尺南北四十一間四尺佛堂八宇
日本堂曰釋迦堂曰阿弥陀堂曰大日堂曰東塔曰
西塔曰求聞持堂曰一切經堂是也

○勘文曰孝謙天皇天平寶字二年戊戌依靈告經
始之本尊藥師如來十二神將四大天王又曰本
尊者自三韓傳來尊像而所納彼國新羅寺佛頂
也然渡我朝遂為當寺本尊入石櫃以奉納于内
殿之上中古來秘佛而聊無發蓋矣元是新羅寺
佛像故亦以當寺号新羅寺

○古今普聞集云云急覺大師如法泥書云云時白髮乃

老翁杖たつとてふよちのやりたるおれくるー内
裏の守護といひ此如法經の守護と云ふ年と高くなりて
くふふむうやと宣ひあり難とてひて尋れもきい
住吉の神なりと名のりあり皇威も法威もあなり
あり我住吉と四所皆一所所へ高貴徳王大菩薩
施宣といふ我と是境卒天内高貴徳王菩薩なり為國
家鎮護垂跡於當朝墨江邊松林下久送風霜將有受
苦身當北方有一勝地願奏達公家建二伽藍轉法輪
あれやうて神宮寺に建立せられありかり下畧

昔時承平七年僧明達と云々朝敵藤原他友と誂伏

僧明達



ぞい明達當寺の藥師佛といつて其靈驗掲く終に純友誅せ
る此事元亨親書にもまひくみ見たりとて五大尊の畫
像より當寺の重寶として寶藏め納む

神宮寺年中行事

正月

○元日 本堂修正會自今日至七日

○二日 十講法事 ○三日 同上

○四日 結願法事 ○五日 於東塔四社御本地供

○六日 於西塔四社御本地供 ○七日 東西二坊御本地供結願

○於本堂七ヶ目之結願牛王寶印結願



二月

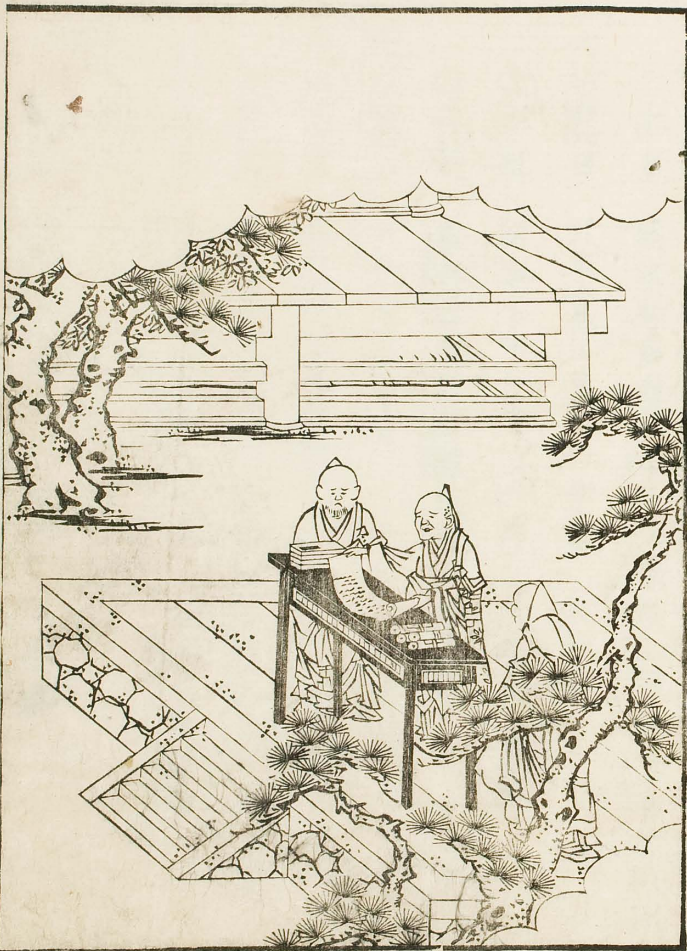
- 八日 於本堂御本地供例月勤之
○十二日 於本堂護摩供
○十四日 於釋迦堂普賢講。於東塔修正會。牛王寶印行法
○十五日 於釋迦堂三五味。於西塔修正會。牛王寶印行法
○十七日 於本堂神供 ○十八日 觀音講法事
○廿二日 於衆會所毘沙門天法修行
○廿四日 於衆會所天台會法事執行
○廿五日 天神講。與天神社內觀音堂法事。連歌會
○卅日 於本堂護摩供

三月

- 八日 於本堂本地供 ○十五日 涅槃會法事
○廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講。連歌會

四月

- 三日 本堂本地供 ○八日 同上
○九日 法華會於舞臺勒之社勢着座。和歌會
○十五日 舍利會 ○廿四日 於衆會所天台會法事
○廿五日 天神講
○申日 上之 山王祭法樂法事 ○八日 於本堂安居百々法事
開闢。於釋迦堂同法事。於本堂本地供



五月

○廿四 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○五日 於東塔本地供護摩 ○八日 於本堂本地供

○廿四 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○廿八日 御田植神事社僧以下着座式事數多

六月

○二日 傳教忌十講開闢法事法華講問

○三日 同右 ○八日 於本堂本地供

○廿四 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○晦日 御拔神事社僧年少之者馬上神輿供奉於塚病

七月

院宣命法事

○八日 於本堂本地供 ○十日 施餓鬼法事

○十四 於本堂安居百日結願 ○於釋迦堂法事日中結願

○廿四 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

八月

○八日 於本堂本地供 ○廿四 於衆會所天台會

○廿五 天神講

九月

十月

前月同事

十一月

前月同事

十二月

○八日 於本堂本地供 ○十五日 於本堂三千佛名經

○廿日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

右神宮寺年中行事大槩

津守寺

住吉郡住吉社南東より

當寺之醍醐天皇延喜元年二月草創本尊之藥師
如來住右の浦より出現其靈像なり或ハ曰國牆國乃
海中より出現ともいへりて國牆藥師の号あり治陽
國牆藥師と同様の尊像なりと云傳ふ

新宮社



津守寺

續千載

年城

の

昔の

津守

沖は

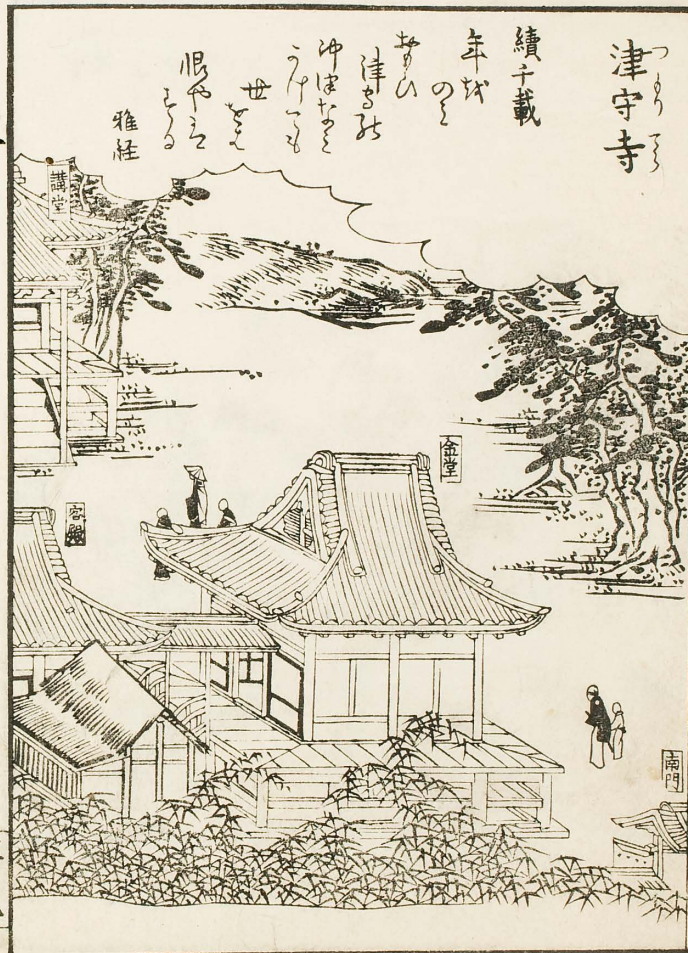
うへ

世

恨

しる

雅経



新勅

頼め

くま

津守

うみ

おの

か

な

あ

あ

忠度





莊嚴淨土寺

住吉社之東より

朝日山淨土寺と号し本尊ハ大聖不動明王弘法大師
 の所作甚壺彫刻ハ愛深明王釋尊四牙五色の佛
 舍利を安置しむし朱雀帝の浄宇将門絶友誅伐
 時當寺の尊像より奇特な得て終に逆臣誅伐に白
 河院の浄宇津守國基勅命をまかり當寺に再建
 時地土中より三尺有余の金れを堀出せり其銘曰七
 寶莊嚴極樂浄土と書り仍て境内八町四方や一
 都卒内院を表し伽藍と建莊嚴淨土寺の号は賜ふ
 堀河院の浄宇延暦宮道式賢卿と勅使く講師横川

莊嚴淨土寺

あゝ梅八重桜乃
うらやま

こゝろたは
弥生の中をさそ
もれあふ人
青葉あふる
ひとこゝろ
かゝりて
あふる



こゝろちり
ふれん
ちり
雪か
白あふる
四時乃
境内
帰

天台寺

本堂



慶朝僧都讃師西塔宗心阿闍梨等をして開元供養
ありより代々大伽藍に靈場なりしを今と亡より其
後後村上天皇先帝御追福にめ安め行幸しめ懐
舊乃御製歌宸筆等當院の寶藏に納む龜山院
の御宇南都西大寺乃末院と成時文龜元年中興
開ふと興正菩薩なり

國基社 同寺内より

住吉の神と和奇の達人なり國基の奇と

唐室ゆかり玉章の地々鷹鳴るる夕陽のとき
此より國基の唐室の神と云傳ふ

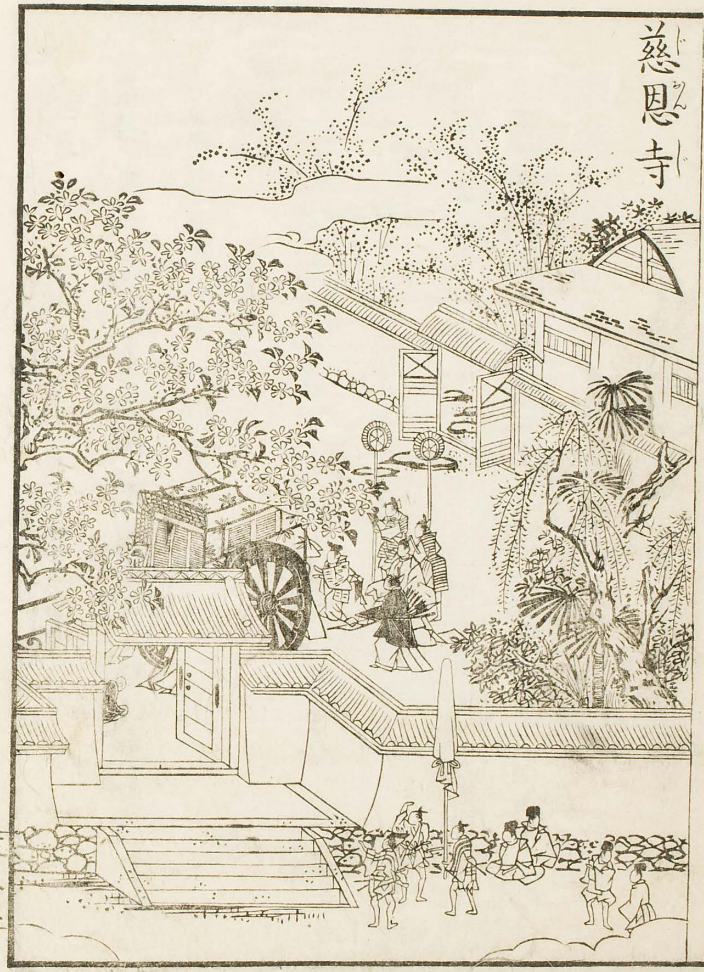
鎮守之神 同寺内より 辨財天社

祭神倉稻龜神本地垂迹の靈像に佛工定朝乃作當寺
の鎮守とん

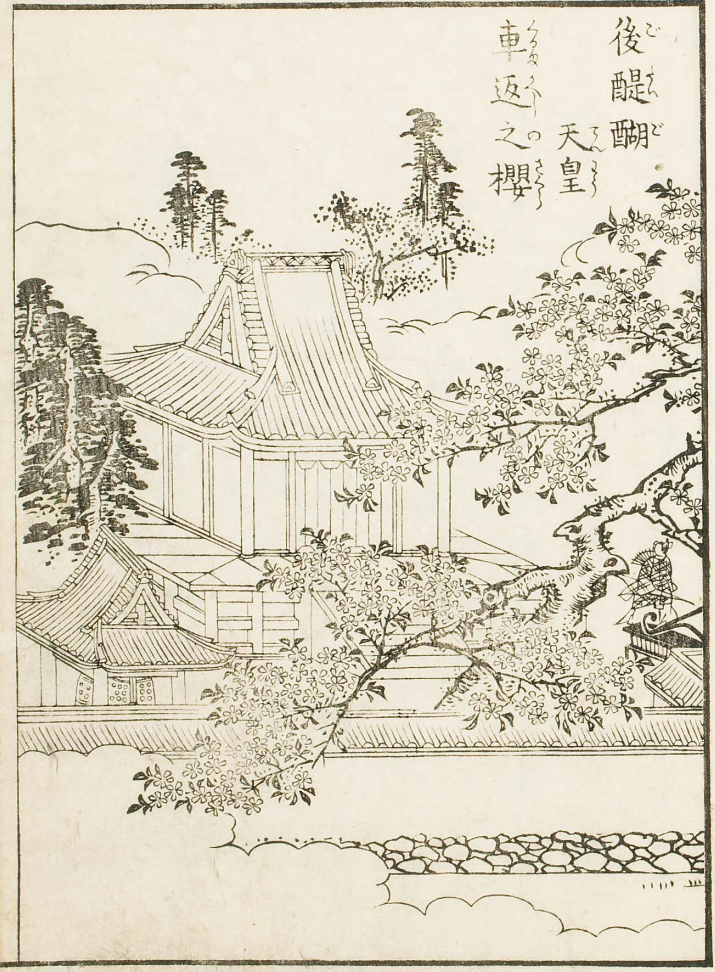
告礪石 同寺内より

當伽藍建立の時檀石を紀州玉津島よりもて津守の
國基和奇と奉りあれに神足に感得して住吉礪石を
寄りと告むい好む所の石も住吉礪石打揚伽藍成就
ぬ其余まる石成る故告礪石とりなり一説は是を
今の正印殿の庭造作の時國基玉津島より和奇となり
得より石を當院に寄附よりもいと其奇と

慈恩寺



後醍醐天皇
之櫻



「年絶もと老もせりてわが浦賀代め成りぬ王は島姫
此歌の趣意は石をまゝあるまゝある此本歌文も見へば其説
たゞかたに清輔の御草紙に此こととせされども歌文の意
と相違はれども今爰に其事を正して用なされば信傳の傳を
記に見ん人用檢らるべし」

慈恩寺

住吉社より東に有

奉尊十一面觀世音聖德太子の沖作寺内は後醍醐天
皇車下の櫻あり

牀菜菴跡

住吉郡遠里小野村にあり

紫野大德寺真珠菴一休和尚の住みたる菴なり一
休住吉に系統通夜もひりくまると老僧一人同く
籠り居り一休和尚も同てゐ和尚とて詠ふや

と一休和尚の詠はて言下み

来てゑまゝ爰も火宅の宿なめ何位よと人のりみ覽
ゑの老僧打笑ひて

素てゑれい爰も火宅の宿なれとゑとめて位とすは

ゑかくは物語に東乃室もちつと夜もあちたれぬまゝ
老僧と何所へゆきけん見へなりぬさうたれいありあ
くすひちひて爰も菴をむとひ位とひちちやなん今も
自画讃の像其所にあり

其讃

詩情禪味俱無能龍寶山中滅大燈盲女艶歌欺
樓子虚堂七世蕊苴僧
諸徒圖余陋質請讚不免自許文明六年五月大
澤七世東海順一休天下老和尚



住吉糸道案内

○大坂よりの本街道を堺筋通りと南へ日本橋へ渡り
 失すぬ長町を南出離き 東へ天王寺 行當り松西へ丁
 ゆき今宮村れの辻と左へ一筋道則足本街なり
 一之巻みくすく

圖あり

○公齋橋通りを南へ公倉ば渡りすぬ野へ出る 難波な
 んばの御蔵の前を今宮へ出るたの方廣田の社 図縁記
 蛭子の社右の方に有 図縁記 東へ行へ右の札乃辻へ出る
 是より右の本海道なり

○廣田社 祭神五座

住吉 表筒男 中筒男 底筒男

廣田 天照太神 荒魁

八幡 譽田天皇 南宮大山 八社 高皇產靈尊 則武庫郡廣田
の社同神なり

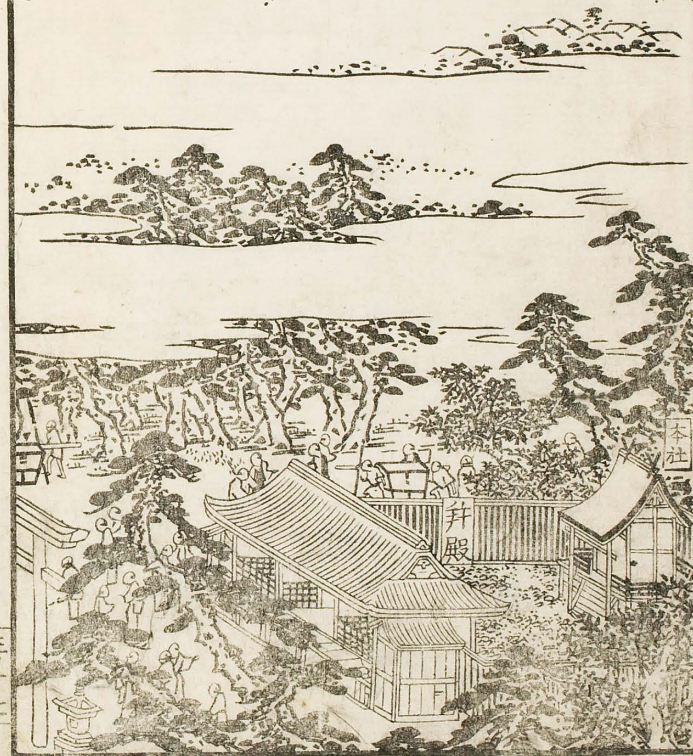
○蛭兒社 祭神三社。蛭兒尊 素盞鳥尊 大日靈尊 是
也日本書記曰伊弉諾尊伊弉冊尊為夫婦生蛭兒便載葦
船而流之又曰蛭兒雖已三歲脚猶不立故載之天磐椽樟
船而順風放棄云云二十二社註疏云西宮蛭兒社相殿之
神二座事八十神右大穴遲神左俗謂夷三郎者伊弉諾尊
伊弉冊尊生日神次生月神次生蛭兒故謂三郎以容異相
号夷云云

浪華の俗此社社商ひ神と稱し奉り例年正月十日の

日福得と祈るとて貴賤雅俗群うんとて奉養一當
村々々々合法が辻安居宮一心寺清水或は浮瀬福屋
かんといふところまでも人の行ぬ隈もなく十日戎号して西
廓江南乃青樓より妓婦の詣るさぬなんいやくといふあ
らききとくれとや花散りいとぬやうぬ出立青とた
る竹蕨群集の中と強みゆくと武家早あつゝとのよ
似通ひたりや足かんらけ興と稱しはる無の枝ふを袋
よの依あゆむ寶のはくりとの河附く打うげ金巾子の冠め
しる千鳥のけ交呼せしきとぬと罵りてゆきとあつ
さぬくみ納まり 街代の春哉とやいふやう三月廿三日

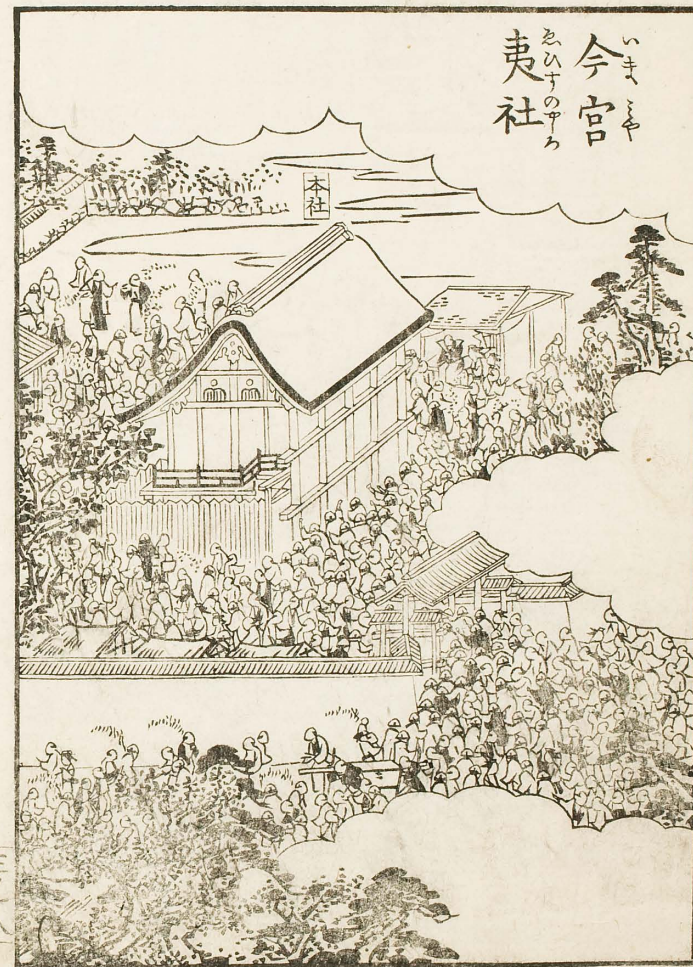
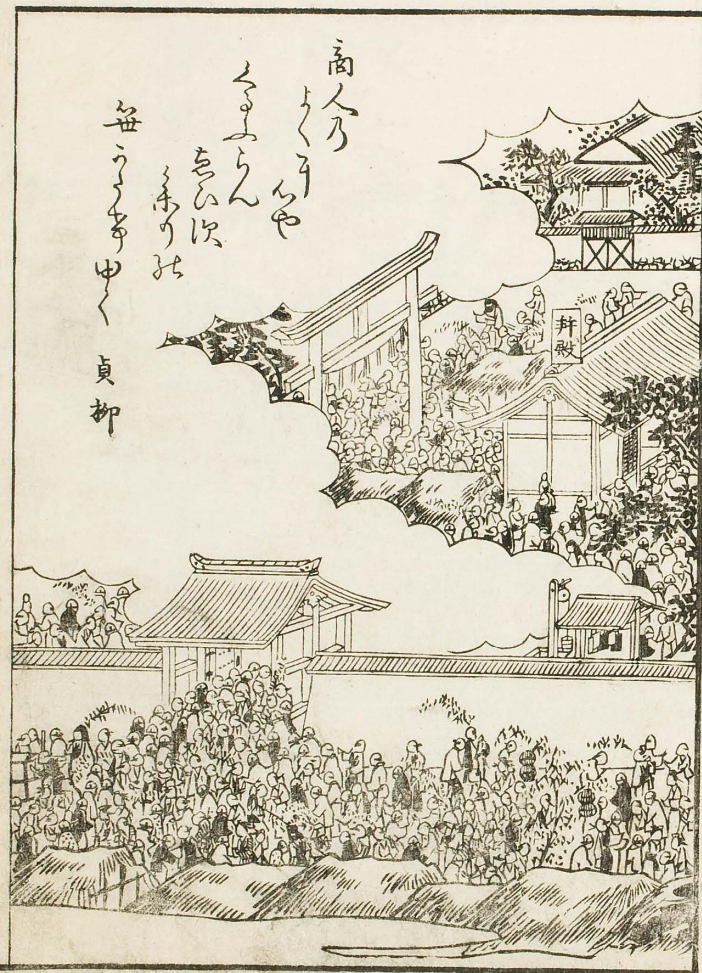
廣田社

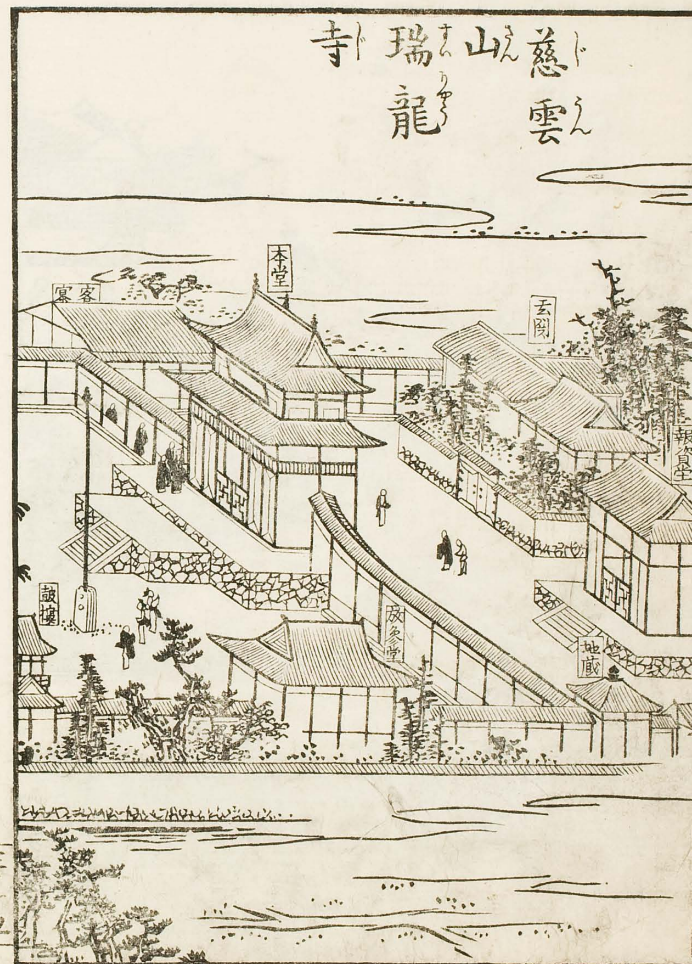
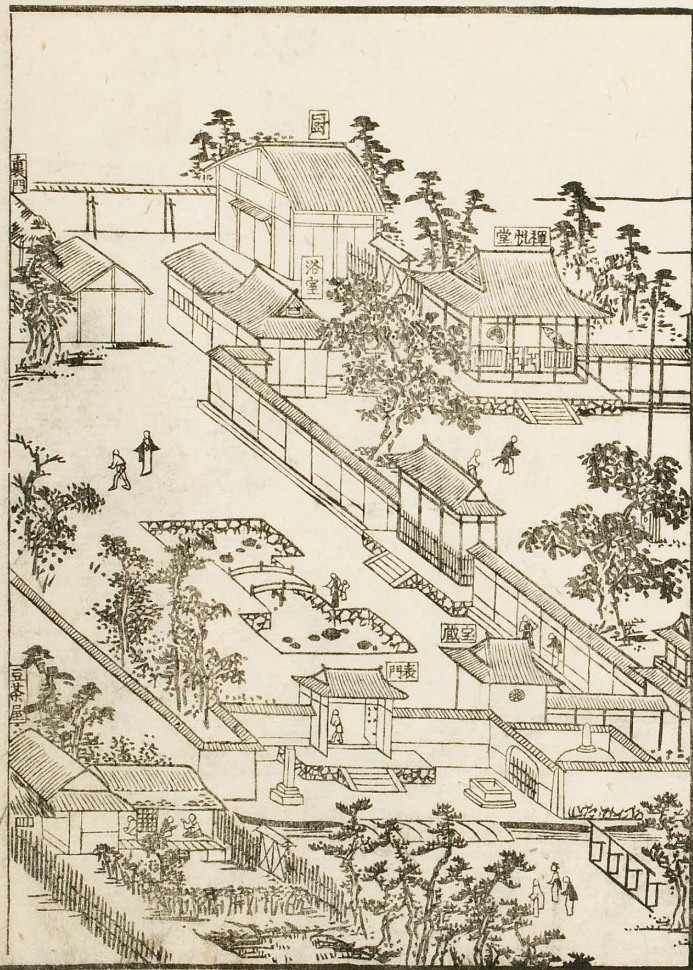
星池と云ふ今宮
 燈子神鬼星と
 此池は銀也
 又聖徳太子傳
 天皇九年
 太子御年
 九歳夏六月
 人をして巻いて
 曰く連八鳴
 と云ふの言
 人をして巻いて
 相和く
 聲あり



昔の人の言はく八鳴
 星と云ふとて
 住むは海よりて
 入物有て火の
 光りて
 星なり
 太子夢みて曰く
 星なり
 色なり
 赤く
 中なる
 早れ
 我
 おのり







午刻神拜音樂（音）九月十八日流滴馬豊後相撲等（馬）
日神輿天王寺石の鳥井（鳥）まで臨幸あり常の神拜
社役等と天王寺より勅使（勅）なり歴世（歴）御朱地（御）と
土俗今宮殿と稱（土）一奉る

○道頓堀と西一橋と渡りたへ川端と難波村へ入る右
慈雲山端龍寺（慈）鐵眼（鐵）と稱（慈）あり門前（門）料理亭あり豆
茶家と号村中（茶）川有本津とくんばの境なりもくに本
津村と南へかゝるも野道と行是を中道と（中）し本街
道の西手なり

○慈雲山端龍寺 本尊藥師如來（藥）世に難波（世）河安置（河）
藥師（藥）と云

仁禪宗黄檗の末院鐵眼和尚（仁）乃開基也二世寶州和
尚諸堂以増建一其功全（功）く備り

○天王寺南門より唐申堂（唐）園有乃方一行（方）より右下り南
安培野街道（安）より天王寺南門より土塔の宮有園と街道小
王子社園有松蟲塚（松）徑塚大名塚小町塚播磨塚（松）名由來
等ありたゞ万代池（万）園有やつて住吉社人町（万）より東の鳥井
より系（万）なり

○庚申堂 天王寺南門より南へあり青面金剛童子梵天
帝釋三申四鬼（帝）正面（帝）とて藥師觀音地藏（帝）安置（帝）庚
申日と貴賤羣系（申）するやゆひし文武天皇大寶元

庚申堂
 不守庚申
 心不疑
 此心良與
 道相依
 平皇已自
 知行此
 任汝三彭
 說是非



三ノ世

庚申と
 一題
 沖中乃
 海士や
 金や
 金や
 金や



土塔の社



一對の祭禮

瑞龍山

号

瑞龍山

土塔社

土塔社



土塔宮天王寺南大門の下あり祭神
祇園牛頭天王内佛と聖徳太子

薬師如来地藏菩薩と聖徳

太子舞樂の面を納りて

神寶に當村の氏神

うて往昔と山鉾と

波美

敷祭禮

執行れ土塔會

洛乃祇園會と

あへの
安倍野村

むかし
新婦に
あへに
やうと
ひい
定は
うと
うと
うと
住る
偶居
野俗
文
造り



くは
古跡
り



年正月七日庚申天童あすくより天王寺乃住侶民部僧
 都毫範み祭紀命に今み至て一千有余年庚申の
 祭りたえに
 酉陽雜俎より凡庚申の日三尸人の過より七度
 庚申の守れ三尸をく三度庚申の守れ三尸
 け依れと入太平廣記より三尸の姓常み人の身の中
 ゐ居て其罪とくく祭庚申の日乃至とに上帝に祈故
 ゐ仙を夢みその先三尸を泡とて又太上感應編にいとく
 三尸の神とて人間の身の中にあり人の善惡よく考庚申の
 日とて三尸の星のいすれ斯の五帝の宮よりつぎ其過ら
 告くはやすら大いれ天より一紀十二年の壽命をくみ小いれ一
 紀六十日の命はくくする故に庚申の夜はもすづつれ一て
 三尸と守れと傳ふなり

○王子之社 安倍野街道より祭る所鯉野王みなり
 皇都より紀州年婁郡みりりの間九十九所の王子に祭
 る其第一の社なり

松虫塚



○松蟲塚

阿倍野街道より其傳曰後鳥羽院の

宮女は鈴虫松虫とて二人ありあり美目よりくくぬ

ゆつやとて一りくぬ帝の許にえ殊よとてたうりくぬ

其に法然上人都東山黒谷の菴室とて別時念佛以

けりゆふ聴聞の貴賤羣集しる此二人の宮女忽發

心を生じやうけくぬとてきり捨出家なり帝甚と

逆鱗ありてかの上人と土佐の國へたし其後松

蟲室は菴室をひて生涯を送りたるをを思て

松蟲塚とす

一説にいひくより伴ひて此地とゆきくより秋の半そ
月の色清く澄て松蟲の聲面白きかきとくとなす

たりし跡を跡より居申て附て衛より本と
りより跡とてあしめて見ればそよお附て
別々流煙とて松蟲塚と号し

○經塚

同所より俗傳云聖德太子經丈一字二石

書寫一字一葉納て經塚と成る

○大名塚

同所より北畠中納言源顯家卿の古墳也

卿と正二位大納言北畠准后親房卿の長男也天弘三年

陸奥の國司兼鎮守府將軍と成る建武丙子の春賊京

師と稱して帝散山々御幸なる顯家義定正成等と足と

京師を破り逐て豊島河原に戦ひ賊と西海に走るも仍而

詔して征夷將軍とす三月中納言は拜に又鎮守府大將軍に

任ん則任國々々帝南將の時結城道忠多々率て上
 野利根川へ戦ふ遂に鎌倉へ陷驅て濃州黒血川へ至カ
 戦して利わん勢州へ歴て南都に屯に般苦坂へ戦ひす
 利あ寸遂へ堺浦へ屯て軍を進めて差上りた時元弘四年
 五月二十二日也帝甚く痛くもひ從二位とゆくりり



顯家卿
 安倍野
 合戦之
 圖
 事太平記
 見也



○小町塚 同所より此塚小野小町古墳なりと云傳へ
○播磨塚 同所よりむ播磨の守みけり人の塚や
といり其證詳なり次

○道頓堀と西幸町の町より猿多村津守新田と終
て住吉の濱邊長峽の橋出る是濱邊街道なり

住吉名勝圖會卷之三終

武庫川女子大学附属図書館

04463921